



おがたっ子



《めざす子ども像》
「元気に登校、笑顔で下校」
【自立】 粘り強く挑戦する子
【敬愛】 自他を大切にする子
【創造】 考えを持ち表現する子

【緒方学園教育目標】 「未来に向かって生きる力」を備えた 緒方っ子の育成

3月版 文責：佐藤 公彦 TEL0974-42-3150 Fax0974-24-4020



自慢できる緒方小の6年生 卒業おめでとう！

3月24日、緒方学園緒方小学校として第1回卒業式が行われ、17人の卒業生が緒方小を巣立っていきました。

卒業生は、集会活動や運動会で、どんな内容にすればみんなが楽しめるか、応援はどうすれば盛り上がるか、知恵を絞り、アイデアを出していきました。縦割り班活動や掃除をする姿、はなまるハートの取り組みやあいさつ運動など、下級生へのやさしい言葉かけ、思いやりのある対応、率先した動きなどを示してくれました。タブレット端末を手もとに置き、集会の説明を発信したり運動会の係活動で作業を効率化したりするなど、あらゆる場面で上手に使っていました。

また、卒業生は特にこの一年、差別についての学習を深めました。「差別を見抜く」「差別を許さない」「差別に立ち上がる」これらのことが平和な社会を築くことにつながることを、他人事ではなく、自分ごととして物事を捉えることを身につけていきました。

さらに卒業生について特筆すべきは読書です。6年間一人あたりの平均貸し出し数は約千冊。この1年に限れば一人あたり200冊以上の借り換えができています。読書の効果は、「知識や教養が身につく」だけではありません。「想像力が豊かになる」「言葉を知り、表現力が増す」「思考力や判断力が向上する」「感情の理解や共感性が育まれる」「集中力や記憶力が向上する」など、皆さんの成長に大きく関わっています。この読書の姿も「緒方小の顔」と言えるものでした。

もう一つ。卒業生は5年生の時に日本の農業について学習し、「緒方の米についてもっと多くの人に知ってもらいたい」「もっと米を食べてほしい」という願いから、緒方の米粉を使った洋菓子作りにつないでいきました。レシピを考え、ポスターやポップをつくり、店頭販売されるようになりました。学習の発展の流れは今の5年生に引き継がれています。よい道筋をつくってくれたことをありがたく思います。

卒業生の中には、相手の人の目を見てあいさつができる人がいます。はっきりとした声であいさつをする人もいます。横断歩道を渡るときに停車してくれた運転手さんに頭を下げてお礼を示す人もいます。車に乗っていても相手の人にお辞儀ができる人もいます。このような姿に下級生は学び、気持ちがいいと感じ、全校児童の多くが「緒方小の自慢はあいさつができること」と思っています。

卒業生は新しい道へと進んでいきます。その中で多くの新しい出会いがあるでしょう。新しい環境に飛び込むことに不安を感じることもあるかもしれませんが、しかし、どんな場所でも、まずは自分からあいさつをしてほしいと思います。それだけで心の距離が縮まり、人とのつながりが生まれます。

あいさつのひとつと言が、自分を支えてくれる人を増やし、素敵な未来をつくる第一歩となるのです。

卒業は終わりではなく、新たなスタートです。どうかこれからも「心を込めたあいさつ」を忘れず、出会う人を大切にしながら、自分らしく歩んでいってください。



この一年、本校の教育活動に対し、常にあたたかく見守り、支えてくださいました市当局、緒方支所、緒方公民館をはじめ、放課後TRY・読み聞かせの皆様、登下校見守りの皆様、児童の学習や体験、安心安全にご協力いただいた緒方町の皆様、保護者の皆様に心から深甚の敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。